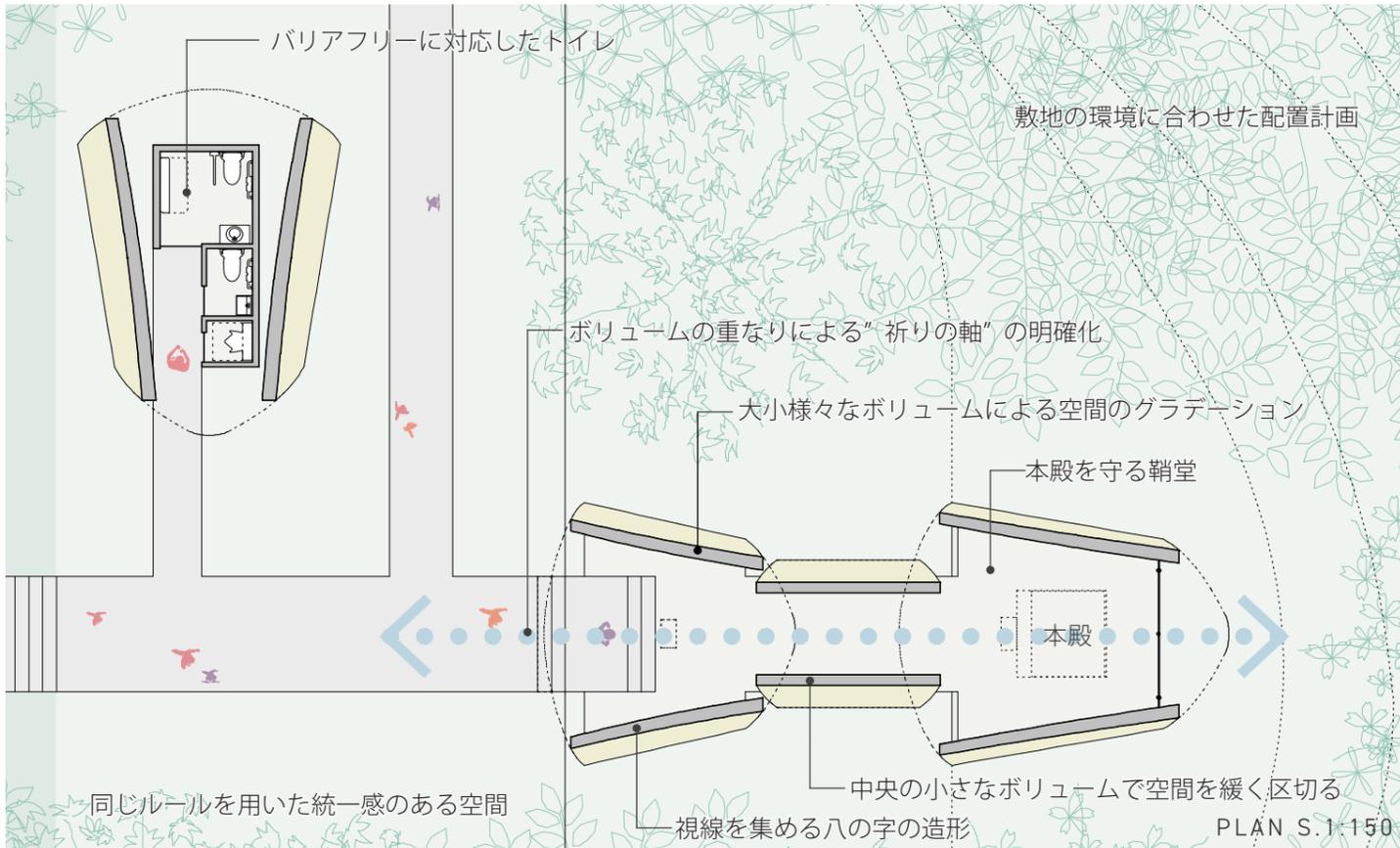




抜けによる祈りの軸



洞窟のような空間のグラデーション



Episode 5

工法の援用、素材の置き換え

短工期で施工可能なこと、セルフビルドの可能性をもった工法、とすることが求められた。そこで、地域にとっても身近な「ビニールハウス」の工法を援用する。

まず、丸管を 1500 ピッチで建て込み、骨格を形成する。その骨格をガラス繊維布にて覆い、内側から発泡性断熱材を吹付けることで全体を自立させる。

モチーフとしての家型埴輪をコンクリートや土を用いた工法で実現することは容易に可能であり一見してコンセプトと合致している様にも思える。しかし今回の諸条件の中で実現可能でありながら、吹付断熱材による凹凸のある表皮自体が現代の空間へ翻訳した結果として立ち現れた表徴であると捉えている。

